

ゲノム編集

2020年 9月

日本企業「サナテックシード株式会社」が作るトマトが、アメリカ農務省によって規制外と認定され「ゲノム編集」された事の実表示をせずに普通のトマトとしてアメリカ国内では売ることが出来る様になった。

ゲノム編集トマト ⇒ 健康機能成分として注目される「GABA」を多く含むトマトになる様に、GABA 整合性酵素 GAD の自己抑制機構を「ゲノム編集」で破壊したもの。

2019年 10月

「抗生物質耐性遺伝子」の脅威

この遺伝子は、遺伝子操作の成功・失敗を判別するために、「遺伝子組み換え」や「ゲノム編集」に組み入れられている。

- ・家畜の餌の多くは、遺伝子組み換え作物であり、抗生物質の残るそれらの糞を堆肥として使用する事で、土壌中の微生物の組成が変わってしまう。
- ・抗生物質耐性菌の拡大の原因の一つになっている。

GMO ・ 遺伝子組み換え

1994年 ラウンドアップ耐性遺伝子組み換え大豆 ⇒ 米国承認、1996年導入

⇒ 除草剤ラウンドアップに対して耐性を持つスーパー雑草が米国の農園の半分にまで広がってしまっている中で次のような薬剤混合タイプがでてきた。

しかし、当の米国国内では使用反対の声が多く、承認されていない状況の中で、日本は、次々に承認してしまっている。

2012年 「枯葉剤耐性遺伝子組み換えトウモロコシ (ダウ・ケミカル)」 ⇒日本承認

⇒ ベトナム戦争において米軍が行った作戦で使用された枯葉剤。

「2,4,5-T」は有毒性が強く使用禁止

「2,4-D」(アリルオキシアルカノエート系除草剤) は農薬として現在も使用されるが有害物質ダイオキシンを含む

5月 「除草剤アリルオキシアルカノエート系及びグリホシネート耐性ワタ」 ⇒日本承認

12月 「アリルオキシアルカノエート系除草剤耐性トウモロコシ」 ⇒日本承認

2013年 「ジカンバ耐性遺伝子組み換え大豆 (モンサント)」 ⇒日本承認

⇒ モンサントの登録の別の除草剤

3月 「チョウ目害虫抵抗性並びに除草剤アリルオキシアルカノエート系、グリホシネート及びグリホサート耐性トウモロコシ」 ⇒日本承認

3月 「チョウ目及びコウチュウ目害虫抵抗性並びに除草剤アリルオキシアルカノエート系、グリホシネート及びグリホサート耐性トウモロコシ」 ⇒日本承認

4月 「除草剤アリルオキシアルカノエート系及びグリホサート耐性トウモロコシ」

⇒日本承認

⇒ 農水省や環境省が遺伝子組み換え作物の承認について検討する事は、カルタヘナ法に基づく野生の生物多様性への問題のみ。

- ・ GM種が他の種に対して優位性を持ってしまわないか？
- ・ GM種が有害物質ういお産生しないか？
- ・ 野生種と交雑しないか？

⇒ 「BT遺伝子組み換え作物」(PR2と略称) とは、虫が食すと死ぬとされる細菌で自然界に存在しているもの。これを植物自身が生成出来る様に遺伝子組み換えしたもの。

チョウ目…がそれら。